

名古屋市における鳥類調査

名古屋市では、1979年から環境影響評価の手続きを円滑に進めるため、名古屋市内に生育・生息している動植物を調査し、2度にわたって取りまとめた（中部植生研究グループ 1980, 1993, 東海自然環境調査研究会 1980, 1993）。2000年度からは、名古屋市内に生育・生息している動植物を調査し、おおむね5年ごとに「名古屋市版レッドリスト」を公表している（名古屋市動植物実態調査検討会 2004a, 2004b, 2010, 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課 2015a, 2015b, 名古屋市環境局環境企画部環境企画課 2020）。

鳥類に関しては、太田春雄（1941）や武内功（1948 [「名古屋の鳥」, 『野鳥』, 13(6), 小笠原 2008, p. 280 で引用], 1959, 1964) のように、当初は一部の篤志家による記録しかなかった。名古屋市では、1975年から名古屋市野鳥生息状況調査（第1次調査のみ名古屋市野鳥生息調査）を開始した（表 1.1; 当初の経緯に関して、森井 2012）。この調査はこれまで9回にわたって実施された（名古屋市農政局農産課 1976, 名古屋市農政緑地局管理部農産課 1996, 名古屋市農政緑地局農産課 1981, 1986, 1991, 名古屋市緑政土木局都市農業課 2016, 名古屋市緑政土木局農業技術課 2001, 2006, 2010）。これらの調査に協力した調査員は、名古屋鳥類調査会、日本野鳥の会愛知県支部、尾張野鳥の会の会員や関係者であり、ふだんから野鳥観察に馴れ親しんでいる。

本報告書のために行った調査は、名古屋市野鳥生息状況調査に連なるものであり、10回目に数えられる（表 1.1）。

表1.1. 名古屋市野鳥生息状況調査の履歴。

調査次	略称	期間	準拠 ^a	依頼先 ^b	報告書 ^c
1	1975年度 第1次調査	1975年（昭和50年）5月～ 同年12月	5	愛知県鳥獣保 護員協議会	『名古屋の野鳥』（名古屋市農政局農産 課 1976） ^d
2	1979年度 第2次調査	1979年（昭和54年）4月～ 1980年（昭和55年）3月	5	名古屋鳥類調 査会	『名古屋の野鳥』（名古屋市農政緑地局 農産課 1981）
3	1984年度 第3次調査	1984年（昭和59年）4月～ 1985年（昭和60年）3月	5	名古屋鳥類調 査会	『名古屋の野鳥 [名古屋の野鳥 '86]』 （名古屋市農政緑地局農産課 1986）
4	1989年度 第4次調査	1989年（平成元年）4月～ 1990年（平成2年）3月	5	名古屋鳥類調 査会	『名古屋市野鳥生息状況調査報告書 名 古屋の野鳥 [名古屋の野鳥 名古屋市野 鳥生息状況調査報告 1989・4-1990・ 3]』（名古屋市農政緑地局農産課 1991）
5	1994年度 第5次調査	1994年（平成6年）4月～ 1995年（平成7年）3月	5	名古屋鳥類調 査会	『名古屋市野鳥生息状況調査報告 名古 屋の野鳥 [名古屋の野鳥 名古屋市野鳥 生息状況調査報告 1994.4←→1995.3]』 （名古屋市農政緑地局管理部農産課 1996）
6	1999年度 第6次調査	1999年（平成11年）4月～ 2000年（平成12年）3月	6	名古屋鳥類調 査会	『名古屋の野鳥 名古屋市野鳥生息状況 調査報告：探鳥地ガイド [探鳥地ガイド 名古屋の野鳥 1999.4→2000.3 名古屋市 野鳥生息状況調査報告]』（名古屋市長 政土木局農業技術課 2001）
7	2004年度 第7次調査	2004年（平成16年）4月～ 2005年（平成17年）3月	6	名古屋鳥類調 査会	『名古屋の野鳥 名古屋市野鳥生息状況 調査報告：探鳥地ガイド [名古屋の野鳥 名古屋市野鳥生息状況調査報告 2004/4 ～2005/3 探鳥地ガイド]』（名古屋市長 政土木局農業技術課 2006）
8	2008年度 第8次調査	2008年（平成20年）4月～ 2009年（平成21年）3月	6	名古屋鳥類調 査会	『名古屋の野鳥 名古屋市野鳥生息状況 調査報告：探鳥地ガイド [名古屋市野鳥 生息状況調査報告 2008/4～2009/3 探鳥 地ガイド 名古屋の野鳥]』（名古屋市長 政土木局農業技術課 2010）
9	2014年度 第9次調査	2014年（平成26年）4月～ 2015年（平成27年）3月	7	名古屋鳥類調 査会	『名古屋市野鳥生息状況調査報告 名古 屋の野鳥2014 平成26年4月—平成27年3 月調査（2014.4-2015.3）』（名古屋市長 政土木局都市農業課 2016）
10	2019-2020年度 第10次調査	2019年（令和元年）11月～ 2020年（令和2年）10月	7	名古屋鳥類調 査会	『名古屋の野鳥 2020: 2019-2020年度第 10次名古屋市野鳥生息状況調査報告』 （本書）

注

a 準拠には、種の記録に際して適用した分類準拠を示し、5は『日本産鳥類目録 改訂第5版』（日本鳥学会 1974）を、6は『日本産鳥類目録 改訂第6版』（日本鳥学会日本鳥類目録編集委員会 2000）を、7は『日本産鳥類目録 改訂第7版』（日本鳥学会日本鳥類目録編集委員会 2012, 日本鳥学会 2015）を意味する。

b 依頼先には名古屋市から直接に依頼（委託）された団体を記載した。実際の調査にあたっては、他の団体からの協力があった。

c 報告書の名称において、[]の外は奥付による表記、[]の内は表紙又は裏表紙による表記である。

d 第1次調査のみ「名古屋市野鳥生息調査」であり、「状況」の語句を欠く。